

## 安威0号墳出土の玉類について（2）

廣瀬 時習

### 1. これまでの経緯

茨木市安威の安威川西岸丘陵地帯に位置する安威古墳群は、前期から後期まで継続的に築造された20基の中小規模の円墳からなる古墳群として知られている（森1951）。1981年に、安威0号墳および1号墳の発掘調査が行われた。その調査成果については、1982年に奥井哲秀氏によって概要が紹介されている（奥井1982）。しかしながら、諸般の事情もあり、出土遺物については一部の写真が掲載されているものの、詳細な報告がなされていない。

近年、本館『館報』第1・2号において河野正訓・清水邦彦両氏により、埋葬施設の概要がまとめられるとともに、出土状況図が提示された（河野・清水2016、2017）。また、粘土槨については、清水氏により『館報』第1号において検討が行われている（清水2016）。両氏の報告において、鉄製品については実測図・写真が公表され、検討が行われている。

筆者も、昨年度刊行の『館報』第3号において、1号粘土槨出土と考えられる玉類について、その実測図や計測値を報告した（廣瀬2018）。1号粘土槨出土の玉類は、ヒスイ製勾玉、緑色凝灰岩製管玉、ガラス製粟玉で構成されるシンプルな玉類と考えられる。

本稿では、昨年度の引き続き2号粘土槨出土と想定される玉類について報告を行いたい。

### 2. 安威0号墳出土玉の出土状況

安威0号墳の概要については、先述のように奥井氏の報告、これらもとに再確認した河野・清水両氏がまとめている。副葬品などの全体像については、河野・清水の報告を参照していただくこととして、ここでは今回報告する2号粘土槨の玉類の出土状況について記しておく。

奥井氏の記述を参考にすると、2号粘土槨では、2箇所からの玉類の出土が記述されている。ひとつは、埋葬施設床面の東端から約1mのところから斜縁神獸鏡1面が出土し、その周囲から石釧2点とともに、丸玉10数点、琥珀製勾玉が出土し、

鏡の下部から丸玉10数点が出土したとされる。もうひとつは、埋葬施設床面の西端部で勾玉・管玉・棗玉・丸玉・小玉等が重なるようにかたまっていたとされている。

2号粘土槨の玉類の総数は、水晶・ヒスイ・滑石・琥珀製の勾玉9点、管玉30点、丸玉48点、小玉76点、棗玉1点とされている。

これについては、前号における報告にあたり玉類の収納を確認し、概要の報告段階の記述とは若干の齟齬があることが明らかとなっている。前号でも報告したように、率直なところ、現状では一部の玉類には対応するラベルが明らかではなく、実際には出土した埋葬施設は明らかではない。

前号における報告にあたり、本館清水氏に資料の確認をしていただき、資料の収納状況や概要報告の記述と比較を行い、出土した埋葬施設ごとの資料を以下のように特定した。以下、前号における報文と重複するが、必要箇所のみ改めて記述することとする。

2号粘土槨については、詳細の記述がなく、製品のサイズを示す数値は知られていない。ただし、1号粘土槨の出土品を除くと以下ようになる。勾玉は、水晶製1点、ヒスイ製4点、琥珀製1点以上、滑石製2点である。管玉については、29点に対応すると考えられる。このほかに注目すべきものとして、厳密には管玉とは相違する形状ではあるが丸く両端部の窄まった形状をした軟質の緑色凝灰岩製の管状の製品が10点出土している。棗玉は、メノウ製が1点である。ガラス玉は、いわゆる丸玉が54点以上、小玉が95点以上と考えることができる。

玉類の出土数は、1号粘土槨・2号粘土槨とも概要報告よりも数量が多い。これについては、調査の初期段階の埋葬施設の確認のためのトレンチの掘削時に出土した資料があることが出土品のラベルの記載などから推定される。

### 3. 2号粘土槨出土の玉類

2号粘土槨から出土した、ヒスイ製勾玉4点、滑石製勾玉2点、水晶製勾玉1点、瑪瑙棗玉1点、

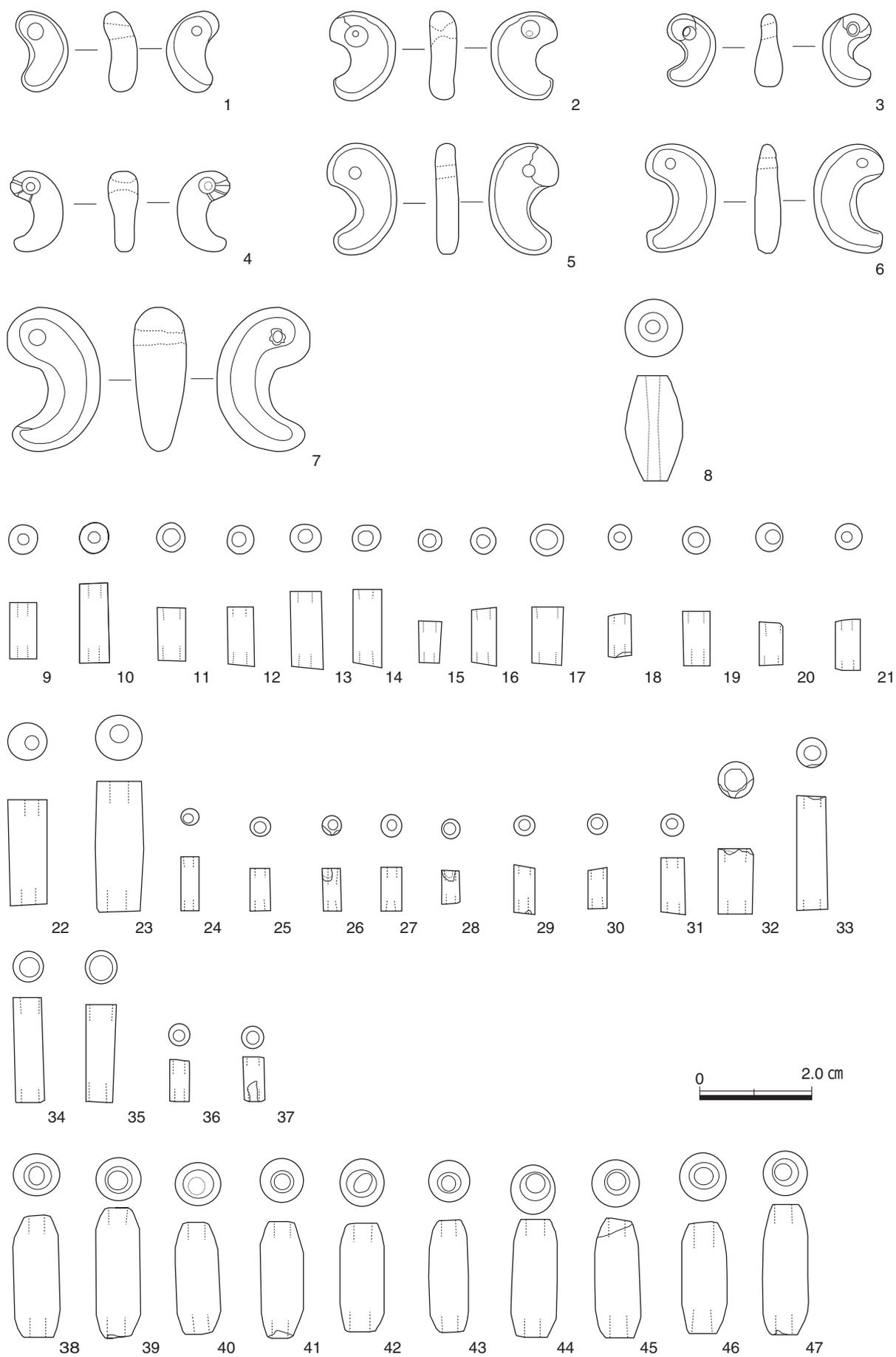


图1 2号粘土柳出土玉類実測图(1)

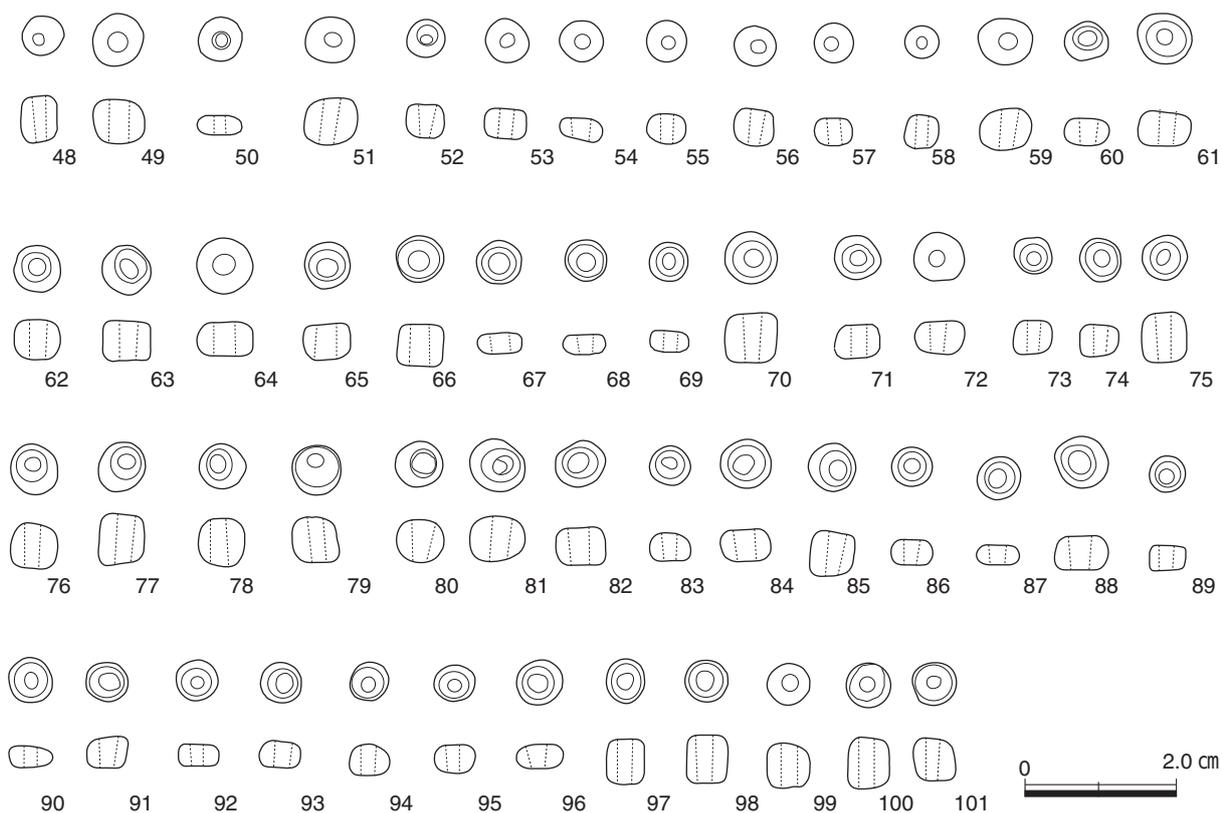


図2 2号粘土柳出土玉類実測図(2)

緑色凝灰岩及び碧玉製管玉などの29点(うち碧玉と考えられるもの6点)、両端が窄まった変形管玉10点、ガラス製丸玉52点について計測・実測を行った。

勾玉は、図1-1が縦14.45cm、横9.45cm、厚さ4.60cmの半透明の淡緑白色(若草色)の、片面からの穿孔と考えられるものである。図1-2は、縦16.00cm、横11.90cm、厚さ4.40cmの半透明な淡緑白色(若草色)両面穿孔のものである。図1-3は、縦12.75cm、横9.60cm、厚さ4.90cmの淡緑白色(若草色)である。頭部は、転石の原石面を残すもので、厚さも頭部が薄い。図1-4は、縦14.60cm、横9.25cm、厚さ5.35cmの淡緑白色(若草色)の半透明なものである。頭部には、両面の穿孔を繋ぐ3条の線刻が刻まれる丁字頭勾玉である。図1-5は、縦20.25cm、横12.55cm、厚さ3.6cmの滑石製勾玉である。図1-5・6ともに扁平な形状を呈している。また、図1-6は、縦19.50cm、横13.00cm、厚さ4.6cmの滑石製勾玉である。図1-7は、縦26.40cm、横16.15cm、厚さ9.50cmの水晶製勾玉である。このほか、琥珀製品と考えられる勾玉は、現状では非常に脆く破片となっており、形状の復元及び計測、実測等

はできなかつたが、破片からみて2点程度あったものと考えられる。

管玉は29点について実測および計測を行った。計測は、ノギスで小数点第2桁までを計測している。ただし、欠損した部位があるものについては実測が行えなかつたものもあるほか、計測値も計測可能な一部しか記載していない。材質的には、そのほとんどが硬質の緑色凝灰岩と考えられるが、6点のみ色調の濃い碧玉と考えられる。

管玉の法量に注目すると、直径3ヵ所の平均で最少が3.48mm、最大が8.63mmを測るが、緑色凝灰岩製と考えられるものでは6.93mmである。平均は直径4.92mm、全長11.21mmである。全体をみると、直径4mm、全長8mm程度の間にある程度まとまるが、それ以外は直径6mm前後に多くがまとまるものの全長にはかなりの開きがある。全長は10mm、15mm、20mm前後にまとまる傾向である。図3に、直径と全長の計測を行った29点の散布図を掲載した。また、材質については、色調は図1-34~37が濃緑色の硬質素材の碧玉と考えられるが、そのほかは淡緑灰色の薄めの色調を呈するものである。2.5BG7/2~5/4付近の範囲に収まる製品である。一部の製品では、石筋が明瞭に

表1 第2号粘土柳出土玉類計測表〔1〕

番号	遺跡名	遺構名	種類	石材	色調	直径（*横）				全長	穿孔〔厚さ〕		番号 〔旧〕	備考
						〔1〕	〔2〕	〔3〕	平均		〔1〕	〔2〕		
1	安威0号墳	第2号粘土柳	勾玉	ヒスイ	淡緑白色	-	-	-	9.45	14.45	4.60	19	C群33	
2	安威0号墳	第2号粘土柳	勾玉	ヒスイ	淡緑白色	-	-	-	11.90	16.00	4.40	20	C群32	
3	安威0号墳	第2号粘土柳	勾玉	ヒスイ	淡緑白色	-	-	-	9.60	12.75	4.90	51	36	
4	安威0号墳	第2号粘土柳	勾玉	ヒスイ	淡緑白色	-	-	-	9.25	14.60	5.35	59	50	
5	安威0号墳	第2号粘土柳	勾玉	滑石	淡灰黒褐色	-	-	-	12.55	20.25	3.60	48	30	
6	安威0号墳	第2号粘土柳	勾玉	滑石	淡灰黒褐色	-	-	-	13.00	19.50	4.60	62	56	
7	安威0号墳	第2号粘土柳	勾玉	水晶	透明	-	-	-	16.15	26.40	9.50	55	43	
8	安威0号墳	第2号粘土柳	棗玉	メノウ	淡赤褐色	9.60	-	-	9.60	19.00	2.95	2.75	33	C群36
9	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	4.90	-	-	4.90	10.50	5.00	5.00	1	C群17
10	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	5.60	5.80	5.75	5.72	14.65	2.85	2.80	2	C群18
11	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	5.60	5.70	-	5.65	10.05	3.40	3.65	3	C群19
12	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	5.00	5.00	-	5.00	10.85	2.65	2.70	4	C群20
13	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	6.10	6.10	6.05	6.08	14.75	3.10	6.08	5	C群21
14	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	4.85	4.90	4.90	4.88	14.00	2.50	2.70	6	C群22
15	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	4.00	3.90	-	3.95	7.90	2.80	2.55	7	C群23
16	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	5.00	4.80	-	4.90	10.95	2.70	2.65	8	C群24
17	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	6.00	6.00	-	6.00	10.85	3.45	2.95	9	C群25
18	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	4.35	4.30	-	4.33	8.05	2.30	1.90	10	C群26
19	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	4.90	4.80	-	4.85	10.55	2.90	2.55	11	C群27
20	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	4.20	4.35	-	4.28	7.80	2.55	2.55	12	C群28
21	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	4.95	4.90	-	4.93	10.10	2.25	2.40	13	C群29
22	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	碧玉	濃緑色	7.00	6.95	-	6.98	19.30	3.25	3.25	21	C群37
23	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	碧玉	濃淡緑色	8.55	8.80	8.55	8.63	14.10	4.20	4.20	22	C群22
24	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡緑色	3.55	3.40	-	3.48	10.00	1.70	1.80	23	C群36
25	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡緑色	3.55	3.70	-	3.63	8.30	1.90	2.70	24	
26	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡白緑色	3.70	3.70	-	3.70	7.90	2.10	2.00	25	
27	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡白緑色	3.95	3.80	-	3.88	8.00	2.15	2.20	26	
28	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡白緑色	3.60	3.60	-	3.60	5.65	2.10	2.10	27	
29	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡緑色	4.00	4.10	-	4.05	8.10	2.20	2.20	28	
30	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡緑色	3.80	3.80	-	3.80	7.35	2.45	2.45	29	
31	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡緑色	4.75	4.75	-	4.75	10.10	2.55	2.40	30	
32	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡灰緑色	7.00	6.85	-	6.93	12.00	4.10	3.75	31	
33	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	硬質緑色凝灰岩	淡緑色	5.50	5.65	5.80	5.65	20.25	3.30	3.30	32	
34	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	碧玉	淡緑色	5.25	5.20	5.60	5.35	19.15	3.05	3.05	98	シャーレ
35	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	碧玉	淡緑白色	5.60	5.25	5.05	5.30	18.00	3.25	3.25	99	シャーレ
36	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	碧玉	淡緑白色	3.85	4.00	-	3.93	8.00	2.60	2.70	100	シャーレ
37	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉	碧玉	淡緑色	3.80	3.50	-	3.65	7.80	2.20	1.90	101	シャーレ
38	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉〔変形〕	軟質緑色凝灰岩	淡緑白色	5.60	7.90	5.10		21.60	3.30	3.30	34	C群2
39	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉〔変形〕	軟質緑色凝灰岩	淡緑白色	5.00	7.00	5.00		23.30	3.15	3.30	37	9
40	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉〔変形〕	軟質緑色凝灰岩	淡緑白色	5.25	7.75	5.25		19.80	3.40	3.15	40	15
41	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉〔変形〕	軟質緑色凝灰岩	淡緑白色	4.47	7.00	4.80		20.80	3.40	3.40	43	21
42	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉〔変形〕	軟質緑色凝灰岩	淡緑白色	6.00	7.55	6.00		19.80	3.20	4.15	46	27
43	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉〔変形〕	軟質緑色凝灰岩		4.95	8.40	4.95		21.60	3.50	3.25	70	71
44	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉〔変形〕	軟質緑色凝灰岩	淡緑灰色	6.00	7.75	5.10		20.00	3.00	3.00	64	59
45	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉〔変形〕	軟質緑色凝灰岩	淡緑灰色	6.00	8.40	5.80		21.35	2.85	3.20	67	65
46	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉〔変形〕	軟質緑色凝灰岩	淡緑灰色	5.20	8.40	5.60		21.35	2.85	3.20	73	77
47	安威0号墳	第2号粘土柳	管玉〔変形〕	軟質緑色凝灰岩	淡緑灰色	5.20	7.90	5.10		23.10	2.90	2.90	76	86
48	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	4.90	-	-		6.20	1.70	1.80	35	1
49	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	5.85	-	-		6.80	2.70	2.60	36	8
50	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	5.65	-	-		2.65	2.15	2.15	38	10
51	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	6.50	-	-		5.80	2.30	2.15	39	14
52	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	5.00	-	-		4.60	2.10	2.10	41	16
53	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	5.75	-	-		4.00	1.95	1.60	42	20
54	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	5.80	-	-		3.10	2.45	2.40	44	22
55	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	5.35	-	-		3.75	1.55	1.55	45	26
56	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	5.45	-	-		4.85	1.65	2.20	47	28
57	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	5.35	-	-		3.70	2.20	2.00	49	33
58	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	4.35	-	-		4.35	1.75	1.65	50	35
59	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	6.90	-	-		4.90	1.90	1.85	52	37
60	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	5.00	-	-		3.60	2.60	2.40	53	39
61	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	6.90	-	-		4.40	2.20	2.10	54	41
62	安威0号墳	第2号粘土柳	丸玉	ガラス	紺	6.10	-	-		5.00	2.70	2.10	56	45

表2 第2号粘土礫出土玉類計測表〔2〕

番号	遺跡名	遺構名	種類	石材	色調	直径(*横)				全長	穿孔径		番号 〔旧〕	備考
						〔1〕	〔2〕	〔3〕	平均		〔1〕	〔2〕		
63	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.75	-	-		5.10	2.10	2.30	57	47
64	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	7.00	-	-		4.30	2.30	2.95	58	49
65	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.25	-	-		4.80	2.90	2.60	60	52
66	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.10	-	-		5.50	2.90	2.80	61	54
67	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.10	-	-		2.65	2.70	2.90	63	58
68	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.70	-	-		2.70	2.70	2.70	65	60
69	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.00	-	-		2.70	1.95	1.75	66	64
70	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	7.00	-	-		6.00	2.95	2.30	68	66
71	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.10	-	-		4.40	2.30	2.20	69	70
72	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.30	-	-		4.65	2.35	2.20	71	72
73	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	4.70	-	-		4.35	1.95	1.90	72	76
74	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.70	-	-		3.85	2.10	1.75	74	78
75	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.00	-	-		6.25	2.15	2.20	75	85
76	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.75	-	-		5.70	2.10	2.10	77	シャーレ
77	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.85	-	-		6.75	1.85	2.15	78	シャーレ
78	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.25	-	-		5.35	2.10	2.05	79	シャーレ
79	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.30	-	-		4.65	2.10	2.05	80	シャーレ
80	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.50	-	-		3.40	2.30	1.90	81	シャーレ
81	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.30	-	-		5.70	2.70	1.90	82	シャーレ
82	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.90	-	-		4.95	3.70	3.55	83	シャーレ
83	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.40	-	-		3.45	2.20	2.20	84	シャーレ
84	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.40	-	-		4.10	2.85	3.55	85	シャーレ
85	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.00	-	-		6.10	2.90	2.90	86	シャーレ
86	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.85	-	-		6.30	2.95	2.95	87	シャーレ
87	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.50	-	-		2.75	2.95	2.95	88	シャーレ
88	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.95	-	-		4.20	2.85	2.85	89	シャーレ
89	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	4.75	-	-		3.10	2.00	2.05	90	シャーレ
90	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	2.50	-	-		5.85	2.20	2.25	91	シャーレ
91	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.30	-	-		4.10	2.50	2.50	92	シャーレ
92	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.40	-	-		3.00	1.90	1.90	93	シャーレ
93	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.30	-	-		3.55	2.20	2.20	94	シャーレ
94	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.00	-	-		3.10	2.70	2.45	95	シャーレ
95	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	4.70	-	-		3.40	2.00	1.85	96	シャーレ
96	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.10	-	-		3.00	2.20	2.10	97	シャーレ
97	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.50	-	-	5.50	6.00			14	C群13
98	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.10	-	-	6.10	6.10			15	C群14
99	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.50	-	-	5.50	6.00			16	C群16
100	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	6.10	-	-	6.10	6.75			17	C群11
101	安威0号墳	第2号粘土礫	丸玉	ガラス	紺	5.75	-	-	5.75	5.30			18	C群12

みられる。

特異な形状をした変形管玉は、両端部が窄まった円柱状の玉である。円柱状部分は直径7～8mm程度、両端部が5mm前後を測る。管見の限りでは、類例は知られていない。長さにはややバラツキがみられるものの、材質的にもいずれも軟質の緑色凝灰岩のもので、非常に一括性が高い製品群である。発掘調査調査段階の写真からみると、水晶製勾玉とガラス丸玉・ガラス小玉などとまとまりをもって出土した状況が伺われる。ただし、1982年の調査の報告では、この特殊な管玉に関する記述はみられない。ただし、写真図版には管玉と同じカットに掲載されていることから、管玉として認識されていたものと考えられる。

丸玉は、濃紺色の通有のもので、マンセルカ

ラーチャートの10B2/6程度のもので、直径5.71mm、高さ4.59mmを測る。直径については、5～6mm程度のまとまりをみせるが、高さについては、2.50～2.70mmを測る非常に扁平なものが含まれている。大賀の分類の引き伸ばし法によるカリガラスと考えられる。実測や計測の過程で、形状の扁平で側面の丸いものが番号50・54・60・67・68・69・84・87・90・96など10点ほどが目についた。色調については大きな変化はない。丸玉については複数の出土位置がある可能性が写真等から明らかである。それらに形状等の差があるのかどうかは明らかではないが、一応指摘しておくこととする。

このほか、本報告では図等は掲載しないが、直径3～5mm程度、高さ3～5mm程度を測るガラス

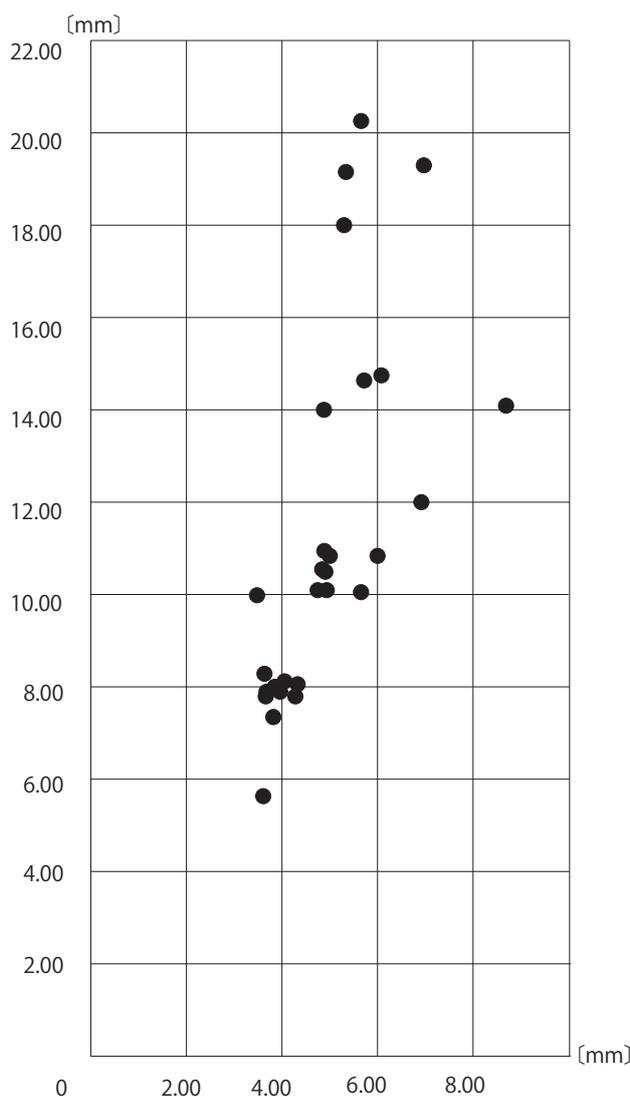


図3 出土管玉法量散佈図

小玉が95点以上出土している。色調は、いわゆるスカイブルーのマンセルカラーチャート5B6/8～10付近の製品である。大賀の分類における引き伸ばし法によるA1に富んだソーダガラスと考えられる。

ガラス玉については前号でも記したように、肥塚隆保、田村朋美、大賀克彦などにより精力的な分析研究が行われ、時期的な変遷やガラスの産と流通の問題などについて明らかにされている。こうしたなかでは、ガラス小玉類に関しては、古墳時代前期から中期、後期にかけてアルカリ珪酸塩ガラスのうちソーダガラスが多くみられることが知られている。現段階では、自然学的な分析は行われていないため、詳細は不明である。

#### 4. まとめと展望

今回、2号粘土槨出土の玉類について報告を行

った。勾玉については、ヒスイ製品が多く出土しているが、水晶製品がみられることは時期を考える上で重要である。これまでの研究から勾玉については、古墳時代前期後半に伝統的なヒスイ製品に加えて水晶製品やメノウ製品等が出現し、材質が多様化することが指摘されている。一方で、水晶製勾玉は中期前半以降には用いられなくなる。滑石製勾玉については、前期後葉以降に副葬されるもので、前期末頃から事例が増加する。今回報告した2点は、厚みが薄く、断面形状が扁平なものである。滑石製品については、他の材質の勾玉に比べて、ひとつの古墳からの出土量が非常に多くなる傾向がみられる場合も多い。こうした背景には、いわゆる「滑石製模造品」との関連性なども考慮する必要があると考える。安威0号墳における出土事例は、埋葬施設西端部から他の材質の勾玉や管玉、ガラス製玉類などと一緒に出土しているとされている。琥珀製勾玉は、古墳時代前期から類例が多いとは言えないが出土事例が知られ、中期以降に増加傾向の玉である。

また、メノウ製棗玉は特異な資料である。瑪瑙製の玉類自体は前期後半以降に勾玉や丸玉などでみられるものの、類例の少なく判断の難しい玉類である。ただし、滑石製品などが前期後葉以降にみられることや、中期前半に碧玉製品の棗玉やメノウ製品の丸玉など関連する資料がわずかに知られていることが注目される。

特異なものとして報告した軟質の緑色凝灰岩製品変形管玉の存在等も含めて注意を要するものである。当該時期は、奈良県島の山古墳などで弧状の管玉が知られるなど玉類にバラエティーが知られる時期である。変形管玉の存在はこうした変容の一つとみることもできよう。

前号において1号粘土槨出土の玉類を報告する中で、その玉類構成や鉄器における成果とも一致して、2号粘土槨の方が後出する可能性を指摘した。これまでの検討では、農工具の小形化の問題から、安威0号墳の時期については前期末～中期初め頃の時期が指摘されている。玉類からは、前期に遡る要素と新しくみるべき要素の両者がみられ、詳細な時期比定は難しいものの、同様な範囲に収まるものと想定される。



写真1 2号粘土柳出土玉類(1) 勾玉・管玉・変形管玉

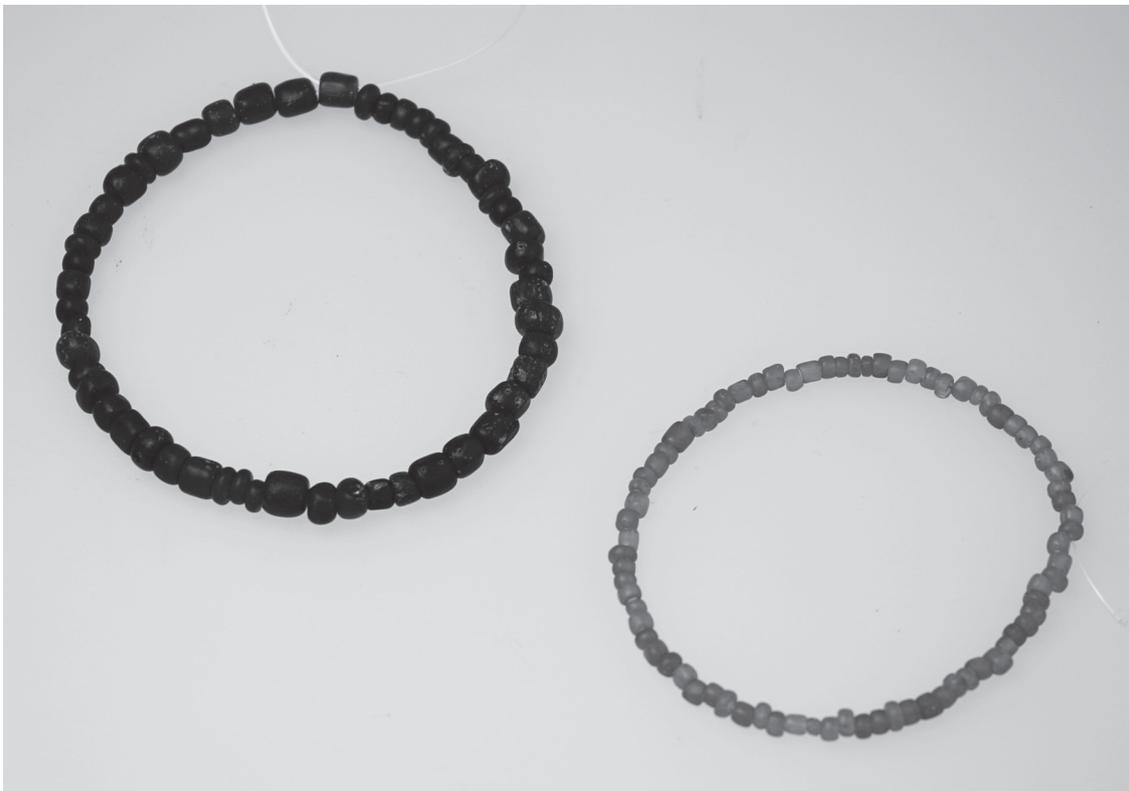


写真2 2号粘土柳出土玉類(2) ガラス丸玉(左)・ガラス小玉(右)

## 謝辞

貴重な資料の調査と報告の機会を与えていただいた  
茨木市立文化財資料館 館長 前田恵子氏、学芸員 清  
水邦彦氏に厚く御礼申し上げます。

## 註

1) ガラス製小玉と言われるものには、類似する形状  
を持つ丸玉・小玉・粟玉などの名称が用いられている。  
本来は、これらの分類基準を明らかにしておく必要あ  
るが、ここでは、直径 10 mm 程度以上を丸玉、10 mm 未  
満～直径 5 mm 程度を小玉、直径 5 mm 以下としておくこ  
ととする。

## 参考文献 (五十音順)

- 奥井哲秀 1982 「茨木市安威 0 号墳、1 号墳の調査」『大  
阪文化誌』第 15 号 財団法人大阪文化財センター  
pp. 29-38
- 大賀克彦 2002 「日本列島におけるガラス小玉の変遷」  
『小羽山古墳群—小羽山丘陵における古墳の調査』福  
井県清水町教育委員会 pp. 127-145
- 大賀克彦 2009 「山陰系玉類の基礎的研究」『古代出雲  
における玉作の研究』Ⅲ—出雲玉作の特質に関する  
研究— 島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化  
財調査センター pp. 9-62
- 大賀克彦 2013 「玉類」『古墳時代の考古学』4—副葬  
品の型式と編年— 同成社 pp. 147-159
- 河野正訓・清水邦彦 2016 「茨木市安威 0 号墳から出土  
した鉄製品 (1)」『茨木市立文化財資料館館報』第  
1 号 pp. 1-4
- 河野正訓・清水邦彦 2017 「茨木市安威 0 号墳から出土  
した鉄製品 (2)」『茨木市立文化財資料館館報』第  
2 号 pp. 1-7
- 清水邦彦 2016 「茨木市安威 0 号墳の粘土槨について」  
『茨木市立文化財資料館館報』第 1 号 pp. 5-7
- 廣瀬 覚 2014 「安威古墳群」『新修茨木市史』第 7 卷  
史料編 考古 茨木市史編さん委員会 pp. 266-273
- 廣瀬時習 2018 「安威 0 号墳出土の玉類について (1)」  
『茨木市立文化財資料館館報』第 3 号 pp. 19-24
- 森浩一 1951 「安威古墳群の問題」『古代学研究』第 5  
号 古代学研究会 p. 17
- 森浩一 1978 「摂津の古墳と遺物」『大阪府史』第 1 卷  
大阪府 pp. 609-612